



地域日本語支援ニュース こだま 第 369 号

2019.10.24



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

=====

1■地域の活動紹介：愛知県豊田市から■

「ぐだぐだ多国籍交流グループ」

(公財) 豊田市国際交流協会 所属 Alpha 日本語教室 代表 若尾 恵一

2■高校進学進路ガイダンス情報 (10、11 月) ■

=====

1■地域の活動紹介：愛知県豊田市から■

在留外国人数が全国で 2 番目に多い愛知県、中でも集住地区である豊田市では、日本語教室にも多くの学習者が集まります。豊田市国際交流協会に所属する日本語教室は 4 教室あり、Alpha 日本語教室はその一つです。このような環境の中でどのような活発な活動が繰り広げられているのか、その様子をご紹介します。

.....

「ぐだぐだ多国籍交流グループ」

(公財) 豊田市国際交流協会 所属

Alpha 日本語教室 代表 若尾 恵一

◆文化を超えたのびのび交流

私たち Alpha 日本語教室は、(公財) 豊田市国際交流協会に所属している、いわゆる「ボランティアグループ」です。教室開催を「手段」として、文化を超えた交流を「目的」として活動中です。活動のコーディネート、進行、サポート等すべてボランティアで対応しています。十数年前はブラジル、ペルーなどの南米の学習者が大多数だったのですが、ここ 10 年あたりは、中国や東南アジ

アの出身の学習者が大半を占めるようになりました。研修や技能実習、仕事で来日している人が多いので、20代から30代が中心ですが、長く日本に住んでいる人や、日本人と結婚して住んでいる人などもあります。

教室自体は週に一度（2時間）ですが、交流グループらしく、各回の最後にはバーベキューや餅つき等イベントを行っています。また、有志で活動後ランチに行ったり、最近ではサプライズの誕生日会や旅行をしたり、そしてなぜかこの1年は、マラソン大会に参加することが多くなったりしています。

#### ◆ゆっくり、少しずつ、長く続ける

最大の特徴は、学習者が毎回150名以上いることです。創設から25年以経ち、当時を知る人はほとんど居ませんが、今の在所帯は誰も想像していなかったかもしれません。といっても、学習者を集めるために特別取り組んだことはなく、自然と在所帯になった、という表現が適切かと思います。

理由を考えると、(1) 全国有数の外国人集住都市である、(2) 教室が駅の近くにある、(3) 日曜日の午前中という集まりやすい時間帯である、(4) 長年の実績ゆえ知らないところにまで教室の口コミが広がっている、(5) こだわりがない（参加資格や制限や決まりごとがほとんどない）などが挙げられるでしょう。

(5) については、裏を返せば運営の中核にいる者のバイタリティーがさほど高くない、ということなのかもしれません。走ることに例えるなら、ゆっくりゆっくり、その分長く走ってこられた、そんな気がします。井戸に例えるなら、水を少しずつ使うことで枯れ果てさせずにいられた。長く続けられたのは、ゆっくり走って少しずつ水を使ってきたからではないか？またゆっくり、少しずつだからこそ誰でも参加でき、人が大勢集まったのか、と思います。走ることに例えるあたり、最近マラソン大会の参加が多くなってきた理由もここにあるのかと考えてきました。

#### ◆同じ境遇の人たちを手助けしたい

また外国出身のボランティアが多いのも特徴です。長年日本にいる人や、複数回教室に参加して日本語習得度が上がった学習者、近年は母国で日本語を十分勉強してから日本へ来る学習者も多くなっています。我々の教室では日本語

習得度を確認して、その結果でクラス分けしているのですが、上記事情からか、一番習得度の高いクラスに入る人が半数以上のときが多く、頭でっちな人数構成になります。

彼らの中には、学習内容をすでにほぼマスターしている学習者も少なくなく、中には自ら学習者としてではなく、ボランティアとして活動したい、と申し出てくれる人がいます。そういった経緯（いきさつ）で、外国出身のボランティアが多くうまれており、役割は主に活動サポート中心で、中には学習進行をこなす人もいます。特に彼らが力を発揮するのは、母国語での通訳や翻訳をする時で、日本人と外国人学習者との架け橋になってくれています。彼らは日本人のボランティア以外に、日本語への情熱と、エネルギーが大きいのではないかと感じます。なぜなら、母国語以外の言葉を覚えたり、異国で暮らす苦労を経験しているだけに、同じ境遇の人達を手助けしたい気持ちが人一倍あるからでしょう。

これからもさらに新しい力が加わって、井戸の水が湧き上がってくるかのごとく、さらに井戸が潤うよう、感謝の気持ちを持ち続けて活動したいと思っています。

★公益財団法人 豊田市国際交流協会ホームページ★

<http://www.tia.toyota.aichi.jp/>

---